

論文審査の結果の要旨

2021年2月8日

学位論文題目 地域医療体制における薬局の機能に関する実証研究

学位申請者 小山内 康德

審査委員 主査 櫻井 秀彦 

副査 古田 精一 

副査 亀井 美和子 

薬局は、調剤などの「薬中心の業務」から、相談対応などの「患者中心の業務」へ業務バランスの転換期を迎えている。一方、薬局は「医療提供施設」として本来その機能を十分に発揮しなければならない、その一つとして相談業務も充実・強化する必要があるが、これまで患者側から見た薬局の相談機能の詳細について、十分に検証がなされていない。本研究では、薬局ユーザーを対象に休日・夜間の調剤および相談ニーズと休日に調剤等を行う薬局が地域の中で整うことに対する安心感について調査した結果、地域の医療体制の中で薬局が休日・夜間における調剤や相談業務を行うことは、地域において患者に安心感を与えることを示した。また、薬の相談のみならず、薬局における健康相談に関する有用性について検討した結果、「栄養・食生活に関する相談」等の自身の健康管理等に資する情報収集を行うための項目等が有用性に強く影響を及ぼすことを示した。さらに、地域医療体制の中で薬局が強化・充実させるかかりつけ機能として、予防医学的な相談機能である「医療機関への受診勧奨」等が重要であることを明らかにした。これまでに明確にされてこなかった薬局における相談ニーズに深く切り込み、定量的かつまとまった有益な知見を得た研究が他にはなく、国が目指す薬局像や薬剤師像と住民が望む機能が同じ方向性にあるという知見も示されている。よって、本研究は今後の薬局の在り方を検討するうえで、重要な情報をもたらすものである。以上のことから、本論文は本学の博士論文として評価に値するものと認定した。